

編集

第1稿

大河原 泰三

2025/05/21

【登場人物】

高松 晴斗 (27).....ディレクター

石田 英輔 (35).....ディレクター

女性.....インタビュイー

女の形をとった何か.....正体不明

○編集室・深夜

薄暗い部屋の中央に蛍光灯。

煙草の煙。

机の上の時計は深夜2時0分を指している。

ガリガリと頭を掻きむしり、煙草を吸う晴斗。

PC上でオフライン編集をしている。

無精ひげを忙しくいじる。

繁華街で若い女性がインタビューを受けている映像。

キーボードを強く叩く音が編集室に響く。

女「…ン、黒い靄っていうか…」

（キーボードを叩く音がして）画面、止まる。

再度、キーボードを叩く音がして、

女「…ン、黒い靄っていうか…」

繰り返される音声。

映像を巻き戻し、編集点を探る晴斗。

何度も再生される女性の映像。

女性の音声が、いきなり途切れる。

動いている女性の口元。

晴斗「マジかよー！ 何やってんだよ！」

音声が入っていない女性のインタビューが続く。

机の下の貧乏ゆすり。

時計を見る晴斗。

深夜2時15分。

机の上の煙草の箱を手に取り、火をつける晴斗。

火花が出るだけで点かない100円ライター。

赤字だらけの添削された構成台本。

握りつぶされた形跡がうかがえ、「やめちまえ！」

「映像舐めてんのか？」と書き殴られた文字がゆが

んでいる。

どうにか火が点いた煙草を思い切り吸って、一度大

きく息を吐くと、すぐに灰皿に押し当てる。

別の映像ファイルを探す晴斗。

同じ女性の別カメの映像が映る。

女「…ン、黒い靄ってどうか…」

そこから先の音声が途切れる。

晴斗「（舌打ちして）プロ意識足んねーんじゃねえの？ ……何これ？」

PC上の映像ファイル。文字や数字が意味をなしていないファイル名。

それを開く晴斗。

映像は今、晴斗がいる編集室。

中央には背中を向けてPCに向かっている人物が映っている。（画面内、端にある）机の上の時計は深夜2時30分を指している。

晴斗と同じ服を着ている。

晴斗「……俺？」

振り向く晴斗。

白い壁。

見回すが、白い壁しかない。

机の上の時計、深夜2時30分。

前を向く晴斗。

映像ファイルを早送りする晴斗。

背中を向けている人物は微動だにしない。

晴斗「誰だよ、これ」

顔をしかめる晴斗。

微動だにしない人物を映している映像。

晴斗「ああ？」

何かに気づいて映像を止め、巻き戻す。

映像の画面左端に黒い筋。

黒い筋は早送りしないとわからないぐらいじわじわと画面中央に向かっていき、やがて黒い靄と言えるぐらいに広がっていく。

晴斗、黒い靄とは別の何かに気づく。目を細めて、画面内の時計を見る。

キーボードを叩く音とともにPCの明度が上がっていく。

（画面内の）机の上の時計、深夜2時30分。

黒い靄の中から、女の後ろ姿が現れる。

背中を向けている人物にゆっくりと滑るように近づいてく。

顔がひきつる晴斗。

女が滑るようにゆっくりと晴斗の後ろから近づいてくる。

×

×

×

○別の深夜の編集室

女が晴斗の後ろから近づいてる静止画。

PC上の、その静止画を見て顔をしかめる英輔、周囲を見回す。

誰もいない編集室。

安堵するも、途中で固まる英輔。

PC上の映像ファイル。文字や数字が意味をなしていないファイル名。

マウスのカーソルがゆっくりとファイルに近づく。ファイルの上でしばらく止まるカーソル。

マウスがダブルクリックされると空のファイル。

再度安堵する英輔。

机の上の時計、深夜2時30分。

女が滑るようにゆっくりと英輔の後ろから近づいてくる。

画面止まる。

大写しされる無音のPC画面（止まったままの女と英輔が映っている）。

〈了〉